

地域連携センターの 2024 年度の活動報告



【写真説明】（左）地域歴史遺産活用演習の様子、（右）12/22 開催の地域連携協議会

【活動概要】

地域連携センターでは、阪神淡路大震災の歴史資料救出の経験を活かし、兵庫県、神戸市、豊岡市、丹波篠山市、三木市など県内の市町村と長期にわたって協力関係を構築し、歴史文化を活かしたまちづくり支援や、地域歴史遺産の保全・活用事業を進めている。2003 年 1 月の設立以来、自治体史の編纂や地域歴史遺産に関連する刊行物を出版しているほか、雑誌『神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター年報 LINK【地域・大学・文化】』を刊行して、連携事業やそれにもなう研究成果を発表している。また年に 1 回「歴史文化をめぐる地域連携協議会」を開催し、大学・自治体・地域住民が地域の歴史文化について課題を共有し、議論する場を設けている。

教育研究の連携も引き続き継続して行い、学内において、学生を対象にした地域の歴史遺産の保全活用を多角的に学ぶ講義、実習を実施しているほか、一般市民向けの講座を開講している。

【活動内容】

教育活動としては、地域の歴史遺産の保全活用を多角的に学ぶ講義（地域歴史遺産保全活用基礎論 A 及び B）、実習（地域歴史遺産保全活用演習 A 及び B）、地域歴史遺産活用企画演習を実施した。地域歴史遺産保全活用基礎論 A／研究に 21 名、地域歴史遺産保全活用基礎論 B／研究に 14 名、地域歴史遺産保全活用演習 A／活用演習／活用企画演習に 17 名、そして地域歴史遺産保全活用演習 B／活用演習／活用企画演習には 21 名の受講者があった。一般向けの講座としては、2024 年 11 月 23 日（土）と 24 日（日）の 2 日にわたり、本学にて「神戸大学文学部公開講座 まちづくり地域歴史遺産活用講座 2024」を開催した。

研究面では、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 ネットワーク型基幹研究プロジェクト「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」の拠点校として、西日本各地の大学や資料ネットと連携し、地域における歴史文化をとりまく諸課題に対応している。

また、兵庫県内を中心とする自治体、および地元企業との連携も継続して行っており、2024 年度は 23 の事業を展開した。主なものとしては、明石市・丹波篠山市・三木市における自治体史編纂事業への協力、国際文化学研究科と連携した神戸ユニオン協会資料の調査研究、附属図書館震災文庫と連携したサンテレビとの阪神・淡路大震災関連映像の保存活用事業などがある。このうち、サンテレビとの事業についてはメディアからも注目され、度々取材対象となった。さらに、2025 年が阪神・淡路大震災の発生から 30 年であることから、震災資料の保全・活用・継承に関わる事業を多数展開し、兵庫県立博物館で開催された特別展「阪神・淡路大震災を伝える・知らせる ― 情報と通信の 1990 年代 ―」（2025 年 1 月 11 日～3 月 16 日）の展示に協力したほか、2024 年 12 月 22 日に開催した「第 23 回歴史文化をめぐる地域連携協議会」では「災害の記憶を継承する一震災資料をどう活用していくか」をテーマとして開催した。